

名物分会 ファイル 39



笑顔の絶えない仲間たち

台東支部上野浅草橋分会

【台東・豊・本山美知子 記】2017年4月に上野と浅草橋の両分会が合併してできた「上野浅草橋分会」。組織数112人(9月現在)で、組合員歴40、50年のベテランが揃います。マンションが多く立ち並ぶ台東区の南東部が活動地域です。

「和」モットーに

若手役員が先頭で奮闘

毎月13日19時から定例の分会執行委員会を町会会館で開催。支部常任の藤田さん(左)が先頭で奮闘中。



コロナ禍になる前の拡大出陣式の様子

したが、今は残念ながら早々に解散です。また、以前は分会の交流企画で、修善寺の泊旅行や柳橋のお台場まで屋形船での納涼会、上野精養軒ヒアガーデンの暑気払いなど、個性豊かな仲間たちと盛り上がりでしたが、今では懐かしい思い出になってしまいました。支部発足時から分会をまとめたててくれた諸先輩方からバトンを受けた若手の執行委員が今ではリーダーとなり奮闘しています。拡大行動時は町会会館に集合、コロナ対策を心掛け、グッズやパンフレットを持って組合員宅や事業所を訪問、時には手分けしてのポスティング。雨天時に「雨の中苦勞様です」と声をかけられたりすると励みになります。声をかけ、話し合い、手を取り合って団結することが必要とされてきたのに、このコロナ禍ではままなりません。それでも、「和」をモットーに下町根性で粘り強く、気風の良さでこれからも歩き続けます。

品川 2年連続「1%実増」へ 笑顔輝かせ日曜行動

【品川・書記・小島毅通信員】8月24日にぎゅりあん「小ホール」で開催した拡大活動者会議には61人が参加。全連総連の元書記次長の清水さんの講演後、関口組織部長より情勢と支部の現状について説明があり、秋の拡大月間がスタートしました。「仲間が困難な時こそ、寄り添うのが組合」を全面に、①組合員訪問、②電話がけを通じて、仲間とのつながりを築いていきます。また、全組合員向けに郵送した「ジャンボハガキ」の反響も上々で、区内の一斉拡大リーフ配布も行ないました。



仲間を訪問をして資料を渡す日曜行動の様子

9月12日の日曜行動では、感染対策を万全に行ない、訪問グッズとして作成した「薄型アルコルスプレー」「タオル」を持参している組合員さんの笑顔が輝いていました。「今できること」「今やれること」を組合員・家族が一致団結して、月間目標(75人)を達成して、2年連続の「1%実増」を確かなものにしていきます。

江東 スケッチブックに手書きで LINEも活用も



訪問先では紙芝居風にサイレントで対話

江東支部小名木分会の9月21日夜の行動では、組合員への電話かけグループの女性たちと天沼昭博さんを分会センタに残して、前分会長の小栗宏司さんと佐々木秀樹さんは早速、組合員の所へ。

【西東京】

支部一丸となって 対話で信頼関係の構築を

西東京

・書記・渡辺裕介「コロナ禍で組合活動に制限があっても、「仲間を取り残さず」「目標達成を離さず」今できる行動で、秋の拡大月間運動をすすめていきます。分会では全組合員への電話掛け、また連日の宣伝カー運行を中心に行動。事前に全組合員に郵送した「オリジナルクリアファイル・ウェットティッシュ・チラシ」を「現場で渡し、東京土建をアピールしよう!」と現場拡大への訴えを行なっています。また、支部四役・書記局を中心に連日の事業所訪問を行い、新入社員や下請事業所の情報を聞き取りとともに、コロナ禍での仕事の影響やCUS登録、36協定など多岐にわたる対話のなかで、寄り添い、「何かあったら東京土建へ」を伝え、信頼関係の構築を進めています。支部一丸となった行動で、拡大目標の達成を目指します。



事業所訪問でグッズを渡す唐鎌委員長(左)

コロナ禍でも出来ることを全力で

【北・書記・高橋伸明通信員】この間、北支部では月次支援金や国保の減免の申請相談が非常に多くきています。先日行なわれた分会執行委員会では、群長さんから「群の仲間がコロナ禍で仕事が減ってきた」「自宅待機の要請もあった」など厳しい状況が報告されてきています。このように状況に仲間が一人で悩まないよう、「困っていることないかい?」の積極的な一声かけ運動を進めています。申請が難しく途中であきらめていた仲間も、支部への相談から給付を受けられたケースがありました。「毎日が仲間づくり、コロナに負けず未加入者に一声

北 申請あきらめてた仲間 組合相談で給付に



赤羽駅での宣伝行動に集まった西が丘分会の皆さん

を」をスローガンに奮闘する西が丘分会では今月間行動参加者確保と密にならない行動をめざし、行動日には群当番を決めて運動を展開する計画を行ないました。